

## 講演会・全体会午前の部

**司会者** ただ今より、講演会ならびに全体会午前の部を行いたいと思います。午前の部の司会を担当します「T」中学校3年の k, 同じく「T」中学校3年の l です。よろしくお願いします。それでは、早速、講演会に移りたいと思いますが、本日予定しておりました永井照力さんが急用のため、講演はお二人になりました。ご理解ください。では、演題『今、中学生に伝えたいこと』。田中伸二さん、廣瀬敬三さん、どうぞよろしくお願いします。



### 演題『今、中学生に伝えたいこと』

**廣瀬さん** おはようございます。講演会という形をとらしてもろうとるんですけど、森口先生からこの話を聞いたのは、1か月ぐらい前になるんですけど。打ち合わせってということで、1回、飲み会が開かれたんですが、何の打ち合わせもできていません。実際にここで何を話すのかというのも、さっき決めたところです。

実際にこういう風な感じでいくというのはないんですが、それぞれお互いに、自分自身の中学時代、全体学習とかのことについて、ちょっと話しながら、二人でいろいろ話したのをもとに、そちらのフロアの方に広げていくたらな、と思います。

自分自身、今、小学校の先生をされていて、たまたま前列に座っている「G」中学生の中には、自分が小学校の時に教えた子どもも

たくさんいるので、たくさん発表してくれると思うので、後で期待しています。担任した子も2人いるので、後で多分言うてくれると思うので、お願いします。

まず、自分自身のことについて語る時に、やっぱり横にいる田中伸二の存在っていうのが、すごく自分自身の中では大きいです。いつも、こういう風な中学生の会に時々呼ばれて、「中学時代のことについて話せ。」と、いつもいきなり、あそこの親方に言われるんやけど、やっぱり自分自身が同和問題とか人権学習とか自分自身のことについて考えられるようになったのは、やっぱりその当時あった全体学習っていうのが、すごく大きかったです。

自分が小学校の時とか中学1年生の時は、自分でもほんなに人の前で話したりするのっていうのは、すごく苦手でした。

横にいる田中伸二。見たら分ると思うんやけど、スーパースターでした、小学校の時に。ホンマに。今、こういう格好で、見ただけで多分オーラがあると思うんやけど。こう見えて小学校の時は全国3位です。本当に。走り幅跳びで、小学校の時から5m30cm、中学校に入っても全国で入賞するような存在やし。で、小学校の時に、先生に勝手にクロネコカップ、ドッジボールの大会のやつを勝手にCMを見て申し込んで、先生に交渉に行く。「先生、監督になってくれん？」って。で、勝手に子どもたちだけでチームを作って出るぐらいの実行力のある奴だって。



自分は、この伸二と1年生の頃から幼なじみだったので、「伸二の横についていけば何かいけるなあ。とりあえず横におったらいけるなあ。」って感じで、ずっと伸二の後ろで隠れているって存在でした。

けど、それが中学校に入って初めての全体学習を見た時。もちろん伸二は森口先生のクラスで、いきなりの全体学習で、バシバシバシ自分の意見を言っていました。で、「うわー、伸二、ごっついなあ。」と思うて。自分自身が思うたんは、その時は、「やっぱり伸二は自分と違うなあ。」という風な印象でした。

けど、何回か何回か全体学習をするにあたって、自分自身の気持ちってというのが、すごく変わってきました。最近、森口先生がよく言う「ヒトゴトから、ワガコトへ」という風な話をよく言よんですが、まさしくその通りでした。初めの全体学習の時は、すごく「座とったらいいな。聞つきよるふりをしよったら、その時間は何とか逃れられるかな。」っていう風な意識で臨んでいたような気がします。

そういう風な中で、何回か全体学習をすごしていく中で、今でも忘れられない1年生の時の冬の全体学習。自分たちのクラスが真ん中で授業をして、みんなの前で発表するという時に、ふと、自分自身のことについて考えるようになりました。「自分、今の自分って、ホンマにこれでいいんかな?」。実際に同和問題とか人権問題とかを考えるにあたって、今でも自分の心の中に、それがずっと根底に流れているんですが、やっぱり自分自身と向き合って、「今の自分でホンマにいいんかな?」っていう風に考え出して、すごく自分自身と向き合えるようになりました。自分自身も、そこから自分の生き方というか、考え方っていうのが、すごく変わってきたなと思います。

伸二について、自分自身もずっと陸上競技

をしていたんですが、もう1年生の時や、伸二に全然かなわず、同じ走り幅跳びしよっても、1m以上差がある。全然話にならん存在やって。練習も、その当時、「H」中学校は強くて、練習にもついていけん存在やったのが、やっぱり自分自身のことについて全体学習とかで考えるようになって、「自分はこう思う。」、みんなの前で「こうなんじゃ。」って言うようになったら、自分自身と向き合うっていうことを考えたら、「やっぱり陸上も幽霊部員で練習にも行かんと、ほんなんではいかんな。」っていう風なことも考えれるようになって、1年生の全体学習の冬からほとんど練習を休んだことがないです。実際に中学校に入ってずっと陸上をやって、高校も大学もって、いまだにずっと走るのが好きで走り続けているんですが。

やっぱり、それも、中学校の時の全体学習で「自分自身と向き合えるようになった。」というのが、すごく大きいなと思います。やっぱり、こういう風な人権問題を考える時に一番の基本というのは、やっぱり自分自身といかに向き合えるか。絶対に誰しも、心の中に自分以下を求める心であったり、人をさげすんだりする、何か「自分より下がいてよかったな。」と思う心っていうのは、少なからず絶対に心の中に誰もが持っていると思います。その心とやっぱり向き合うかどうか、自分自身、「今の自分ってほんまに、これでキラキラ輝けてるんかな?」「自分のこと好きって言えるんかな?」、ほういう風なことをすごく考えるっていうのが、差別をなくす第一歩じゃないのかなと、今でも自分自身は考えています。

やっぱり差別をなくしていくためには、一人ひとりが、まず何か、自分の心の中にあるものを吐き出したり、向き合ったり、また身近な人と話をしたり、本音を語り合ったりという風なことで、繋がっていけるような気がします。まず、一人の力は弱いけど、一人が

頑張らなんだら、周りの人もついてこないし。逆に言うたら、自分自身のことを自分と向き合ってしっかり語るようになれば、周りもついてきてくれると、自分はすごくそう信じています。

今、横における伸二とか自分の中学時代の同級生とかも、そうやって繋がりをつくってきたな。時には言い合いになったり、時には「ほれ、違うんちゃうん。」と、お互いに言うたりしたって時もあるけど、やっぱり、「自分はこう思うんじゃ。」、自分自身の差別意識とかいろんな面と向き合って、自分が思うこと、それぞれを言い合っていく。その経験っていうのが、やっぱり中学生の時に、今こういう風な中学生集会でたくさんの中学生が集まっているけど、やっぱりそういう風な機会を、中学生の時に持ったか持っていないかっていうのは、自分の本当に今の生きてきた中で、すごく財産だになっていう気がします。

今日、こうやって、こういう前っていうか、何か恐縮な高い場に出させてもろうとんですけど、偉そげなことも言えるんですけど、やっぱり今日ここに来て、中学生とかから、またパワーをもらって、自分も、「中学生に伝えたいこと」っていう題やし、「自分はこうだった。」っていう風な話をしたいし。また、中学生から返してもらって、その当時のことを自分も振り返りながら原点に戻って、すごくまた考えていけたらなと思うので、また後でいろいろな話をふると思うんですが、よろしくお願いします。どうぞ、伸二くん。



**田中さん** いやー、なかなか何て言うか、ここまでええように思われとるっていうんは、すごい恥ずかしいような感じで、何か。廣瀬が最初に言ってくれたような、いろいろ例をあげてくれて、それはすべて事実なんですけど。で、こういう感じで話せるっていうパートナーがおって、こういうパートナーと、こういう所に来て、こういう話ができるっていうのは、すごい今日、滅茶苦茶あがっています。

そうやね、何から言おうか。今日、中学生の子の集まりっていうのを聞いて、ほんで、「ボクらの中学生の時はどうやったんか。」っていうのを、とりあえず話したいんですけど。

ボクも、オレは地区出身で、学習会とか行っきよったんですけど、中学校に入って全体学習っていうのに遭遇して、めっちゃ最初テンション下がって。道徳の授業とか、小学校の時とかめっちゃ好かんくて。ほなけど、廣瀬にさっき言われたように、いろんな所で目立っとったけん、やっぱりそういう所でも目立ちたいっていうのは、すごいあって、何かその、みんな道徳の授業とかって、結構本気で、まあ本気で言よらん子もおるんやけど。おるんかな？分らんけど、オレは本気でなかった、実際。あの、「ええようなこと言おう。」とか、何か、「ここは先生に誉められたいけん、こういうこと言う。」と、ちょっと計算高き奴だって、小学校の頃から。

で、そういう感じで、きとって、中学校になって全体学習の場、全体学習ってみんな知っとるよね？知っとんよね。語り合いの授業。「G」でいう語り合いの授業とか、そういうやつと思うんやけど。廣瀬は、「そんなに言よらんかった。」って言よんやけど、こいつもすごい熱い奴で、すごいそういう場で本気で語りよった人物で。みんなが本気で言よる時、涙とかめっちゃ流したりする訳ですよ。

で、オレもほういう時あるんすよね。自分のこととか言ったら、やっぱりグッとくるし、



いかも分らんけど。めっちゃリアルなことやけど、やっぱり中学校の生活って、みんな地元やん。「G」中学校だったら、「G」の子や、結構多いやん。やっぱり地元の中学校は地元の子やけん、やっぱりそれなりに自分のことも知ってくれとるし、小さい頃からの付き合いやけん、知ってくれとるし、言わんでも伝わっとることは、きっとあると思うんよ。オレも、廣瀬やと小さい頃からめっちゃ仲良いけん、もう全然、顔見ただけで、「こいつ、何が言いたいんかな。」っていうんは分かる。ホンマに分かるよな？。

でも、そういう関係やけど、やっぱり一歩出るやんか。高校とか行くやんか。高校行ったり、社会出て仕事とか就いたら、そういう訳にいかんっていうんが今の現状であって。なおさら、今のオレのことで言うたら、部落差別についてのことで言うたら、オレ、中学校の時、「全体学習でガンガン、バーって発表しよった。」って言よったけど、高校行ったら、ホンマに上がらんよね、テンションがね。上がらん。何でかって言うたら、やっぱり気持ちがよそ向いとる子って、ようけおる。ほなけん、多分みんな考えとんやけど、やっぱり、あんまりそういうん、ダルイっていう子、多いんやと思う、きっと。でも、考えとんやで。そういうみんなも。

で、そういう所に、空間にポンと放り込まれて。オレ、一人、二人ぐらいかな、もっとおったけど、常に話す子っていうんが中学校の時もおったけど、その子と一緒に高校行って、「二人で上げていこう。」って、なっとったけど、もう全然。ビックリするぐらい別世界。

やけん、こう下がれて言うんではないんよ。オレは実際に高校で上がらん、上げれんかった。で、みんなもそういう道に進んで行くと思うんやけど、上げれんくても、自分の中でのモチベーションっていうんは、下げたらアカンで、絶対に。ほなけん、やっぱり常

に「私はこの空間でおるけど、私はこうなんや。ボクはこうなんや。」っていう芯を持つとかんと絶対にやられてしまう。



ボクもやられそうになった、1回。ごっつい強いもん持とったつもりやったけど、高校行った時に、授業中にあまりにも受け入れれんかった、その現状が。ホンマに、あっちゃこっちゃで、みんなの気持ちが。授業飛び出たことがあって。ホンマにそれって何かすごいけん、そういう経験することなかったけん、めっちゃショックやったんよね、ボクは。そういう部落差別のことについて無関心な感じっていうんも、すごい嫌やったし。で、なおさら、ボクは地区出身やけん、「もっと考えてだ。」っていう言い方は、何かあれやけど、「もっとみんなで話しようだ。」っていうノリだったんやけど、何かそういう風にかんのが、高校の時だって。

また、そこから更に社会出るやんか。会社行ったら、職場ではめっちゃ差別あるんよね、何か。オレが遭うたんは、例えば「自分のものに触るな。」「エッタは触るな。」とか、そういうリアルに差別落書きみたいなん、会社にあたりする。それが今の世の中やと思うんよ。

ほなけん、地区の子も地区外の子も、そういう経験せんかも分らんし、するかも分らん。自分がせんかっても、自分の大事な人がそういう経験をするかも分らん。その時に、「自分はどうするんや。」っていうことが、すごく大事になってくると思うんよ。ほういう時

にやっぱり、多分、自分のことだったら、それなりに「自分自身でもどうしようか。」って悩むんやけど、友達のことって、やっぱりあれやんか。常にこういう話をしとかんと、そういう風に悩んだ時って、話しにくいとかってもんもあるけん、やっぱり常にそういう繋がりっていうんが大事になっていくっていうのも、すごいある。自分がホンマにテンパった時に助けてくれる友達っていうんを、中学校の時って、ホンマにつくりやすい時やと思うんよ。地元の子と付き合いだして一番長かって、ほんで、ほのタイミングで別れたりしていくんやけど、今の時期ってすごい大事やと思うんよ。ボクの中ではそうやったけん。ほなけん、すごい大事にしてほしいなっていうんがあります。

いろいろ言いたいこともあるんですけど、どうしようかな。何からいこうか。

オレ、ちょっとやり方、変えさせてもらって、ちょっと今日、廣瀬とも話したいけん、ちょっと角度的にこうなっているか(二人で向き合うように座り直す)。あの、何かごっつい思うことがあって。ごめんな、こう(二人だけで)話しよう訳とちゃうけん。みんなでこう話しようってことやけん。オレも今日、廣瀬と話、久しぶりやんか。でも、会って話したいけん、こういう風に話させてもらうんやけど。

すごいね、今日、小豆島の人かな。カバン、「I LOVE CARP」って、広島の付けてて。ボク、広島、最近めっちゃ好きになっとってな。何で好きかっていうたら、オレ、踊り、ダンスとかしようけん、広島とかに行ってダンスとかする時があるんやけど、そういう時に繋がれる仲間っていうんが最近できて。で、すごい何か「みんな思うとる。」と思う。

何か「こんな(こんな格好)で来て。」って多分、思うとる人おると思うんよ。でも、これはオレの精一杯の正装やけん、これは勘

弁してほしいんやけど。自分のこういう感じってあるやん。こういう子ってやっぱりおるよね、大人で。多分、みんな、「えー」って思うとるかもしれんけど。でも、そいつらって、すごい一生懸命自分のやりたいことやんりよって、やりたいことをやれる人生に自信を持つとる、誇りを持つとる。それが何であってもいいと思う。オレの中やったらダンスやし、みんな、それぞれ部活とかあるやんか、趣味とか。そういうんを、すごい、これからドンドン頑張っていくってほしいなっていうんはあるよね。で、何でそういうんが大事かって言うたら、何で大事なんかは分らんけど、やっぱり好きなこと、やんりよったら、上がるでえ。上がるでえな？。

で、オレはそういう感じで、自分の好きなことで広島にトライして、ほの広島のメンバーと会った時に、ダンスしに行くとんやけど、「いやー、伸二さん。」とかなって、「行きましよう。」とか言って、ピースパーク、平和公園に行つて。平和公園に連れていかれて、「いや、ここでは…」とか、いろんなこと、自分のこととか言うんですよ。普段、ホンマに人の悪口とかも言うメンバーもおる。やけど、ほのことになったら、すごい熱い子とかもおってな。でも、ちゃうやん。普段そういう感じで人の悪口とか嫌なこと言う奴が、ほの広島のことになって熱くなる。

まあ、それもすごい大事なんやけど、やっぱりすべて、「何かをしようけん、共に伸びなあかん。」と思うんよな。「何かだけやって、何かだけ、おろそかになったらアカン。」と思うんよな、ワイは。

ほなけん、やっぱり、ずっと最初に飛ぶけど、中学校の時は部落差別。ずっとガーっと自分のことやけん、必死に頑張るけど、やっぱりそれぞれの目線で、いろいろ、身体障がい者の差別とか、そういういろんな差別について考えるようになった、実際。で、「興味あることは勉強もしようかな。」っていう風

にもなるし。

で、最近、ほの広島の、ほういう原爆の被爆何世とかっていう話とか、ずっと広島の子からされて。「めっちゃしんどい思いをします。」って子もやっぱり中にもおるんやけど、やっぱりほういうところが、ボくらみたいなやりたいこと、やんりょうけん、「ボクはそういうのを言われても関係ない。」っていう、「自分で上げていける。」っていう子がすごい多い。モチベーションが高い子が。

で、何でかって言うたら、ホンマに一生懸命、まあ部活とかそういう感覚で聴いって。一生懸命、下積みがあった子、頑張ってきた子が、そういう風に大人になって、やっぱり成果がでとる、実際。青山テルマとか知ってる？。青山テルマとかMINMIとか、あの辺のバックダンサーになっとったりする。Mステとか、ガンガン出よう子とかもおったりして。そういう子やって、めっちゃ頑張ってきたけん、自分に自信があるんよね。ほなけん、今の、今やんりよることっていうんに、すごい自信を持って、誇り高きものにして、これからいってほしいっていうんは、すごいあって。

で、何が言いたいかっていうたら、オレ、何が言いたいんやろうな。あのね、そのメンバーが最近、CDを出して。「広島の8月6日」っていうCDを出して。これ、4日ぐらい前にリリースしとってな。そん中で自分の地元のこととか、自分の今の現状とか、今の子ども生き方とか、世の中のあり方とかっていうんを、自分の目線でごっつい考えて、歌にしとんがあって、すごい響くんやけど、そん中にあるフレーズ、すごい好きなんがあって。フレーズ、覚えてないんやけど。

あのね、「学ばなければいけないこと」「学ばなければ見えないもの」。結局、そういう学ぶ機会っていうのを、学校っていう場があるんやけん、そこで学んでいくことって、すごい大事と思う。どっちかっていうたら、ワ

イも国語とか数学とか、社会とか超好かんかった。ほなけど、学ばんかったら、分らんでえ。

実際、部落差別とかもそうやん。「何でアカンか。」って学ばんかったら、何でアカンのかも分らんでえ。ほなけん、結局は「差別がアカンよな。」って口で言う子もやっぱおる。学んどうけん、言えることかもしれへんけど、学んでないけん言えることでもあるんかもしれへん、実際。ほなけん、学ぶことって、すごい大事と思うんよね。ほなけん、いろんな学校の教科とかもすごい大事やし、今となつてはすごい後悔とかもしとんやけど。すごい学ぶこととかって大事やなって思う。オレばっかりしゃべんりよるけん、ちょっとこういう感じ(2人で話す感じ)でしょうや。



**廣瀬さん** 自分が伸二の話も聞つきよって、やっぱり思うんは、「自分の好きなこと」って言よったけど、やっぱりホンマ、多分、根本は全然見た感じと違うと思うんよ。言ようよなことも違うと思うけど。

で、端から見たら、多分まったく違うような2人やなっていう風に思うと思うんやけど、ウチらの中では、心の中では、底では一緒なんよ、ホンマ。そこの部分が何かって言うたら、何か自分自身に対して持つとうもんがあるかどうか。

やっぱり伸二はさっきも言うたように、小学校、中学校でも陸上がホンマにすごかったんよ。で、高校も陸上で行ったけど。ほれも

伸二と昔、話したことがあるんやけど、もう途中から伸二は「辛くなった。」って。今まで小学校で全国3位。周りの期待があって、「オレのホンマにしたいことって何だろう？」っていう風なことを考えだして、ダンスっていう風なところについて。今も、もうすごい熱心にダンスをしようわけなんよ。

で、自分自身は、やっぱりずっと陸上をやってきて、今でもやっぱり陸上っていうんもある。で、それぞれが思うところの出発点のスタートが何かって言うたら、やっぱり全体学習とかで、お互いの思いを言い合った関係っていうのがあるし、やっぱり自分が、この前でたとえ何を言われようが、人にどう思われようが、「自分は自分なんじゃ。」、最終的には、そこがあるんよな。ほなけん、伸二が今日こんな格好で来た。

**田中さん** 「こんな格好で来た。」って。オレの精一杯の正装やで。

**廣瀬さん** いや、車で一緒に今日、迎えに来てもらうて。

**田中さん** そう、一緒に来たんな。

**廣瀬さん** そうなんやけど。パッと初め見た時に。昨日、一応電話で打ち合わせしたんな。

**田中さん** そう、打ち合わせ、電話で。

**廣瀬さん** 「どんな格好で行く？黒っぽいんで、シャツみたいなんで。」って。

**田中さん** そう、「シャツみたいなんで行こうか。」って。

**廣瀬さん** 「行こうか。」っていう話だったんやけど、こう来た。やけど、伸二は「ああ。これ、ああ。」とか言よったけど、ほれで周

りに、ここにおる全員に、どう思われようが、伸二にとったら関係ないよな。

**田中さん** そうそう。絶対にそうよ。

**廣瀬さん** ほれは、伸二は伸二で、人に何と言われようが、自分もほうやけど、こうやってみんなの前で言ようけど、ほれを「何かあの2人おかしいちゃうん。」って。

**田中さん** 気にしたらアカンで、ホンマに。周りの言うことは絶対に気にしたらアカンと思う。「気にする」っていうんは。でも、この当時、ワイが中学生の時とか、めっちゃあったけん。「みんな気にするのかなー？」って。どうなんだろう？

**廣瀬さん** ほなけど、伸二は正直ホンマに、すごいカリスマなんよ。自分の中では、今でもホンマ、あれなんやけど、伸二はホンマに小学校とか中学校の時とかも。気にするのかな？「気にしよった。」って言よったけど、ほんなんを見せんのよ。みんなの前でも「気にしよう」とかいうのを。「オレはオレで、やんようよ。」って感じで。ホンマ、大人になって話ししよう時に「えー、伸二もやっぱりほうやったんじゃ。」って、自分の中では印象が強い。

で、自分もこうやって、「みんなの前で何と思われようが…」と思うけど、やっぱり内心、「どう思うとるんかな？」っていうんは気になるけど、ほこをどう自分に自信を持って、ホンマに自分自身のことを語っていくか。自分の生き方とか、やってきたことっていうんは、ほれはもう曲げれんことやし。ほれは否定したくないやろ？

**田中さん** 否定したくないなあ。

**廣瀬さん** 中学校の時の全体学習やも、話しよ

ったら、実はオレらがしよったやつって、キ  
レイゴトよな？

**田中さん** うん。

**廣瀬さん** というような話も、やっぱりしたこ  
とあるよな？

**田中さん** あるある。この前も同級生の子やと  
飲んだ時、やっぱりその当時、頑張んよった  
っていう子も、「しんだい。」って言う子もお  
るし、実際にあん時に全然言えんかった子が、  
「私、実はこう思うとった。」って、今にな  
って言う子とかも。「やっぱ、考えよったん  
やな。」って。やっぱ、「ほれってすごいな。」  
っていうんはあるなあ。

**廣瀬さん** ほなけん、すごい自分がホンマ、今、  
この時になって思うんは、ホンマに確かに全  
体学習とか自分やが言よったこと振り返って  
みると、キレイゴトかもしれん。みんなの前  
で、言うんはあれかもしれんけど。けど、自  
分の生き方の中では、絶対に否定はできん  
よ。ほなけん、全体学習とか、森口先生があ  
そこにおるけど、森口先生を中心にして板中  
があったよな？ああいう風な感じは、自分  
の中で、すごい自分自身を変えてくれたもの。  
今の自分があるっていうことで、否定はでき  
んのやけど、「もっと違うやり方はなかった  
んかな？」って、やっぱり今でもすごい思う  
し。

やっぱりほんなんは、多分、全体学習がな  
かったら考えてなかったと思う。真剣に話し  
合ってたかったら、もうほれで、「すごかつ  
たな、自分や。よう頑張ったな。」っていう  
ところで、終わっとったと思う。

**田中さん** まあ、今の語り合いの授業っていう  
んかな、「G」中学校は。全体学習といえば、  
森口先生とかなるけど、やっぱり結局はきつ

かけで、作ったんはそうかもしれんけど。や  
っぱり、作んりょんはオレらだったんかな。  
で、多分、みんななんちやうんかなっていう  
んは思うんよ。だって、みんなが気持ち入っ  
てなかったらこんだけ、こういう会もこんだ  
け集まらんと思うし、結局、みんなが動いと  
るけん、こうやって来とる訳やけん。

ただ、やっぱり、「この場やけん、自分が  
出せる。」っていうんはあると思うんよ。こ  
の場やけん言える。けど、やっぱり、一步出  
た時に、今の自分が出せん空気というか環境  
っていうんは、もっとすごいあるけん。ここ  
はすごいパワーあると思うんよ。めっちゃこ  
こ、パワースポットになっとうと思うんよ。

でも、ここを出たら、そうはいかんのちゃ  
うんかなって言うんが、すごいあるかな。ほ  
れで病むとかちやうよ。ここで集まるとる意  
味って、みんなにパワーをもらって、「私、  
こうだったんや。」って気づいて、「私はこう  
や。」って意見を持って出て、それを励みに、  
誰かに一步、家族とかでもいいし、誰かに伝  
えたり、言いやすい子とかに伝えたりしたら、  
それはそれで全然オレはいいと思う。で、変  
わっとうことを、自分で、「ああ、私、今日  
はよかった。」って思えることがすごい大事  
やと思う。

別にワイ、さっき、「この場やけん。」とか  
って言うたけど、けど実際はそうよ。オレ、  
さっき高校の話したけど、みんなで頑張れよ  
る場があって、空気があって、けど「ポツン  
と自分が置かれたらどうやねん。」って言わ  
れた時に、やっぱりワイもこうなる(下がる)  
時ってあるもん。実際、今もあるしな、そう  
いうん。でも、ほういう時に、「ああ、やっ  
ぱりオレ、あかんわ。」とは思わん。思わん  
し、思わんようにしよるっていうんもあるん  
かな。

でも、「自分でこうなりたい。」ってあるこ  
とない？みんな。あるよな。ワイ、自分で、  
「こうやりたい。」とか、「こうなりたい。」

とかあるけん。こうなる時にこうなりたいたがために、やりたいことをやるためには、やらなあかんことって、絶対にあるけん。ほれっていうんは、自分で決めることやんか。友達に、しんだいけん相談するっていうんは、すごい大事なんやけど、結局、芯を持つとかなアカンのは自分と思うけん。そういうんを、大事にしたいかなって思う。それは、自分にも言えることやけど。



**廣瀬さん** ほうやな。みんな、芯を持つとったな。何ていうか、話しよって、それぞれ。たぶん今、話を聴つきよっても、そうかもしれんけど、自分と伸二は向こうとる方向が違うと思うんよ、芯の。ほんで、また今日は来んかったけど、照力は照力で違うし、託也は託也で違うけど、それぞれ自分の一本の筋を持って、ほんでお互いに重なり合う所っていうんを、本音で言い合いよったというんか、中学校からずっと今になっても言ような？お互いに、「これはこう思う。」とか、「ほうかなあ？」とかっていうんは。ほなけん、ほこのところの芯っていうんの基礎になるんを、この中学生の時に、やっぱり感化されるか感化されんか。ほなけん、自分やもそうやけど、ホンマ、折角こんだけの人数がおるし、いろんな人がおるけん、いろんな考えに触れて、で「自分はこう思う。」「自分は違うなあ。こうやなあ。」、いろいろ自分なりに、両方の面から中学校のうちに考える「きっかけ」っていうんを作ってくれたんかな、全体学習っていうんが。ホンマに。ほれが今にも生きとうかなっ

て思う。

**田中さん** ほれは、そうかもしれんなあ。結局、全体学習っていうんか、語り合いの授業、今のこの場でもそうやけど、こういう場があるっていう「きっかけ」ってだけであって。ホンマに、方向性はそれぞれあるかもしれんけど、ここで変わろうとするんは、さっきも言よったけど、自分次第と思う。ほなけん、その自分次第っていうんを、ただ投げとうだけでないんやけど、やっぱりその中でも、ワイもほういう話とか聴く側でいった時に、自分に自問自答というんか。

**廣瀬さん** ああ、懐かしいな。

**田中さん** 中学校の当時、流行った自問自闘。

**廣瀬さん** 懐かしいな。

**田中さん** 自分で問いかけて、自分で答えを出す。ほれしたら、めっちゃ悩んどう時とか、ホンマに悩んどうけんかも分からんけど、ホンマにしんどいことって、ようけあるんよな。友達関係のこととか、例えば恋愛のこととか。みんな中学生やけん、付き合いようとかあるんかな？知らんよ、知らんけど、好きな子もおるで。そういう時とかで悩んだりする時もあると思うんよ。実際、結婚した時とかは、すごい悩んだよ。「オレ、地区出身で。」とかって言うこと。地区外の子やったんやけど。地区出身で、別にほんなん、普通の人間だったら悩んでいいことで悩むわけやん。で、オレもめっちゃ悩んだし。で、決して地区外の子には関係ないって訳じゃないで。地区の子と結婚する。お互いに好きな子と結婚できるっていうんは、すごい理想やで。ほなけど、その中に、何か否定される何かあるやん、親とか周りとか。それっていうんは、あってはならんことやけど、闘わなあかん瞬間ってい

うんがあるんよね、やっぱ。ワイも、ワイがそうだったけん。で、実際、「ほんなん関係ないよ。」って言うてくれたんやけど。ほなけん、自分は言うた。「自分は地区出身で。」って。別に普通におったら、全然悩まんでいいことで、悩んだりするで。けど、ほういうんって、正直しんどい、ホンマに。けど、それが今の現状やけん。受け止めなあかんし、誰かがさっきも前で言うてくれたように、「願うだけではアカン。」とかって。そうやと思うんよね。自分自身で何かやっていこうということをしんと、アカンと思う。ホンマに、見えてない差別とか、そういうんがゴロゴロしとうけん。そんな時に、出会った時に、「私はこうじゃ。」っていうんを持てる強さを、こういう繋がりでもっていけたら、それはそれで全然違うと思うんよ、ホンマに。オレ、中学校の時に、ほのことで学習してなかったら、ホンマにアカンかったかもしれん。

**廣瀬さん** いろんなことに敏感になったというか。確かに自分やが中学校の時にしよったんは、ほの部落差別中心にしよったけど、ほれだけじゃなしに、人との繋がりとか、人を大切にすることとか、そういう風なことを、しっかりな。さっきの障がい者差別とか、原爆の話とか伸二が言よったけど、ホンマに自分自身と、さっき伸二が言よった懐かしい言葉、「自問自答」っていうことを、自分自身に問いかけて、自分自身で答えを出したり。自分自身あの当時、森口先生が好きだった「闘う」っていう風な自問自答とかも書いとったけど、やっぱり、ほういう風なことをしよったら、部落差別とかだけじゃなしに、「今、自分がこういうことを人に対して言よんは、ほれはいいんかな？どうかな？」って。また、そこでも自分自身に問いかけられると思うんよ。で、端から見て、他の人が、「こんなことしよう。それは違うんちゃうん。」っていう風なことを思えるか、思えんのか、

その時点っていうんも、自分はすごい大事かになって。今、自分が小学生とか教えよって、やっぱり一番大事にしてほしいんは、人との繋がりとか付き合いとか、人を思い合うとか、ほういう風なところを、大事にしていきよったら、実際にいろんな差別がある中で、ほら、「差別を受ける側」「差別をする側」っていうんがあると思うけど、ほんなん関係なしに、自分の友達、一番身近な、例えば、オレやったら横におる伸二とか、他の子やが、辛い思いをしようっていう時に、「ほれは絶対におかしいんちゃうん。」っていう風な繋がりっていうんもあるし、「自分のホンマに身近な人が差別を受ける側だったら、どうなん？」っていう風なことを考える。そういうことをしよったら、自分の生き方っていうんを、すごいホンマ、考える。初めの話に戻るけど、やっぱり自分自身と向き合っつて、ホンマに「自分のことって今好き。」って言えるかな？「こんなこと思いよう自分で、ほれはホンマに輝けとんかな？」っていうところに戻るんかなっていう気もするんよ。ほなけん、やっぱり自分自身の中で、中学校の時の、ホンマ自分自身と向き合えたっていうんが、今の、今でもホンマ向き合っつて考えるし。やっぱり、そのところが、自分の中で財産かなくて気はするなあ。



**田中さん** こういう話し方であれなんやけど、中盤以降が来てしもうたけん、あれなんやけど、あんまりオレら、講演って形で聴かれてしまおうとな、何かちよつとな。講演なんやけ

ど、講演じゃない的な。こういう新しい、これはこういうスタイルやけん、これはこれで受け入れてほしいんやな。で、もう一個、自分の周りで言い合うようなことがあって。もっと何て言うんか、人の、何ちゅうんだらう。例えば、「どっか行きます。出ます。」となった時に、やっぱり何かは自分の前であったら、多分、構えてしまう。どう言うたらええんや。何かの問題にぶち当たった時に、「えー、どうしよう。」ってなったりする。そういうの、自分であるやん。ファイティングポーズ、自分の中でとるやん。そういうんを、まず、このフレーズとかにも作られとったんやけど、そういうんを下ろして。まずは自分で構えとったら、入ってくるもんも、全然入ってこんようになるっていうんは、最近すごい自分で勉強したことかな。

**廣瀬さん** どういうこと？ どういうこと？

**田中さん** あんな、言うよ。ごめんよ、分からん子もおったら、ごめんよ。あの、まずは何でもそうやけど、問題に対してファイティングポーズ構えるやん。ウツてなるやん。なら、ほれを下ろさんことには、自分のことも楽になれんやん。構えてしまったら、語れんっていうか。それがすごい、そういう言葉が周りであって、皆がよう言ようって。「あっ、でも絶対そうやな。」っていうんを思うようになってきたかな。どうなんだろう。そう、別にあえて、それを言うわけではない、伝えたいわけではないんやけど、それが自分の中では、すごいあるかな。

**廣瀬さん** ほなけん、とりあえず、「こう身構えて」じゃなしに、向き合わなアカンってこと？

**田中さん** そうそう。向き合うってこと。そう。まあ、受け入れるってことに繋がるんやけど。

**廣瀬さん** こう、目をそらさずに、ほのまんま受け入れんかったら、前には進歩せんってことやな。

**田中さん** うん、そうそう。そういうんは思うなあ。

**廣瀬さん** そこのところも、ほうじゃわな。

**田中さん** で、ごめんな、あっちゃこっちゃいって、あれなんやけど。あの、もう一個言いたいことがあって。あんな、もう一個、すごい言いたいことがあって。部落差別にも繋がる、「部落差別で命を落としたりする。」っていう話も聞いたりするけど、そういう命の重さ、尊さっていうんを、すごい考えるというか、感じるようなことがあって。昨日も(テレビドラマの)「美丘」とか、すごい考えさせられるで。部落差別で言うたら、オレが結婚する時に読んだ本で、差別に失敗したから、失敗したっていうたらおかしいな。差別されたことによって、死んだ方が楽になるけん、友達が自殺してしまったっていう、そういう話を読んだこともある。それぐらい部落差別は重い。重いというか、ホンマにしんどい部分があると思うんよ。で、実際、ほの部分でも、結婚した子とかと話した。「死んだ方が楽なんかな。」っていう話をしたことがある。高校生の時に。でも、そういうんじゃないで。ホンマに。何ちゅうんだらう、1回きりの人生やし、今って今しかないと思うんよ。ほなけん、変えるのも自分なんやけど、変えていくには、しんどい部分っていうんは、すごいあると思うんよ。ほなけど、やっぱり何ちゅうん、そういうんで命を落としてしまったりするんって、もう何ちゅうんか、悲しいけれど、何かアカンと思う瞬間が、すごいあったんよな。ほなけん、みんなも、生きていく中で、部落差別のことで言うたら、これから出

会っていく友達とか、まだ出会っていない未来の旦那さんとかお嫁さんとかと出会うやん。結婚とかもする話になるやん。この中、地区のおもおるし、地区外のおもおるって言よったけれど、そういう中で、多かれ少なかれ、友達とかが、そういう経験をしたとかっていうんはあると思うんよ。で、その時に、やっぱり自分でも頑張る力っていうんを付けたアカンし、地区外のおも絶対差別をせん、絶対に理解して差別させんし、自分の周りにもさせん。ほんで、地区の子にも、へこんどう子おったら、「ほんなん全然一緒に立ち上がってやっていこうだ。」っていうぐらいのモチベーションは持っておいてほしいんは、すごいある。

**廣瀬さん** 今の話を聴いて、自分が中学校の時に、誰かが言よった言葉がずっと頭に残ったんやけど。ほの、部落差別に関すること言うたら、地区と地区外っていう風な二つはあるけど、自分やが中学校の時に全体学習とかで、地区の子だけが一生懸命頑張るんよん。ほれはもう、ほれだけでは何も変わらんのだ。地区外、地区内っていうんは、車の両輪と一緒に。片一方が動いても、もう片一方がブレーキを踏んどったら、前には進みません。だから、地区外とか地区内とか、立場の違いっていうんもあるけど、やっぱり差別をなくすっていう目的は、それぞれ違うって思うけど。やっぱり、いろんな差別があるけど、自分がすごい思うんが、「誰かのためにする」っていうんは、ワイは、一生続かんような気がします。やっぱり何か、そのところで、差別と向き合うためには、「自分は自分のためにしよんじゃ。」。確かに地区外の子からしたら、「差別は、部落差別に関して言うたら、受けない。」という意識を持つとうかかもしれんけど、ホンマにほうなんか？実際に結婚の時に、ほういう立場になるかもしれへんし。実際に差別を受けなくて結婚できたとして

も、自分が差別を受けなくてホッとしよう自分のままで、ホンマに自分のことを誇れるんかなって。やっぱり、「差別をなくしたい。なくしたい。」って言葉で言うんはすごく簡単やけど、ホンマに心の中で、「何しになくしたいんかな。」っていうところを、しっかり考えてなかった、いつかは疲れると思うんよ。やっぱり、「誰かのためにしようこと」っていうんは、いつか絶対に疲れがきて、もうできんようになるから。やっぱり、「自分自身のため」っていうことで、「地区、地区外関係なしに両輪を回していかんんだら、差別はなくなっていくかな。」と。今ホンマ、伸二が言ようように、「オレらが、地区の子やが頑張るだけじゃなしに、地区外の子も。」っていうんが大事やと思う。今ここには、「両方おる。」っていう話もしよったし。やっぱり、自分が一番考えてほしいんは、こういう風な話を、帰って家族や兄弟や家の人と真剣に話ができるかな。やっぱり、ほういうところが、実際に自分自身で向き合えとうかなってところと思う。自分は中学校の時に、ほういう意識があったんよな。ホンマにみんなの前で話をしたりしようけど、こんな話を家に帰って母親や父親とか兄弟に、ほんな話をしたら、どういうことが返ってくるかな。そこで、しっかり話し合いができるかな。話をして、「それは違う。」「これは、こうじゃ。」「ほうやな。」という、ホンマの話っていうんを、さっき言よったように、同級生だけじゃなしに、ほの輪っていうのを、また広げていけるんかなって思う。自分自身の身近な家族とかも変えれんのに、ほんな大きな「差別をなくそう。変えよう。」やいうんは、絶対に無理な話やし、やっぱり自分の身近なところっていうところで、ホンマに本音を語り合えるかって。ほういうことを、みんなそれぞれの立場はあると思うけど、それぞれの立場の中で、やっぱりしていくっていうんが、一番差別をなくす、小さな小さな一歩かもしれんへんけ

ど、大きな一歩違うんかなっていうんは、今の伸二やの話を聴きよって思うたし、改めて、ほういうことは、すごい思うなあ。

**田中さん** ほうやなあ。今の廣瀬の話、オレの中では、ごっつい分かりやすかったんやけど。でも、ほうと思う。自分の問題として考えれんことには、絶対に変わらんとするんよな。ワイの友達とかも言よったけど、「自分が地区であることを受け止めることが嫌じゃ。」って子もおったりするんやけど、やっぱりそれっていうんは、闘わんことには、ホンマにそういうままでいっきよって、いい人生が送れるとは、全然思わんのよな。ほなけん、受け入れる。受け止めて、受け入れて、そういう感じでこれから闘っていくとかって大事と思うんよ。で、さっき廣瀬も言うてくれよった、「片側の車輪で」っていうの。ホンマに、ほうやと思う。ほなけん、ほれを一気にみんなで、ようけでしようとしとったら、ホンマに大変なことと思う。ほなけん、それっていうのを、それに繋がることっていうんは、「まず自分で考えて、隣の子に、今おる隣の子に、自分のことが言えるか。」って、すごい大事になってくると、ボクは思うんよ。言えたりするかな？みんな、するんかな？まあ、するんだらうなあ。言えるんだらうなあ。

**廣瀬さん** ほうやな。ほれ聴きたいな。ほういうところをな。



**田中さん** でも、中学校の当時とか、ガッツリ言よった。言える環境やっただけんかも分からんけど。

**廣瀬さん** うん。

**田中さん** ホンマに、自分のしんどいこととか。実際に当時、差別電話がかかってきた友達とかもおって。「えっ、マジで。」とみんな思うかもしれへんけど、ほんな古い話でないよな。中学校の時やけんなあ、14年とか。まあ、古い話やけど。でも、今の話でもあるんやけどね、実際。家に電話かかってきて、「あんたの所、エッタやろ。」って電話がかかってきて。もう、あり得んことない？もう、あり得んのよ。でも、ほれが今の世の中なんよ。で、ほれをワイは、ホンマに自分のことと思ったんよ。で、それもテンパツとって「どうしようか？」って一人悩んどったけど。やっぱり、ほういうんは、友達としての繋がりにっていうんがあつたけん、やっぱり電話一本で、「じゃあ、オレ、頑張るわ。」って言うて、頑張れるようになっていけるんよな、実際。ホンマ、電話一本やと思う。電話一本やし、誰かに言うこと一つで、救われることって、すごいようけあると思う。何でそいつと繋がれたかっていうと、やっぱり、自分のことを言うけん、しんどい部分を言うけんなんよ。時には涙も流して話とかもする時あるし。ほれぐらい、しんどいってことを言う。別に言わんでもええことなんかもしれんよ。発表とか、無理にすることでないかもしれんけど、やっぱり、自分のことに向き合うことにビビッたら、ホンマに進まんと思うんよ。自分が今、何を考えとんかって向き合って、やっていくことが、すごい大事やなっていうんは思う。何か、ソワソワしてきだしたけん、何か終わってくださいます的な感じやな。ですよね？

**廣瀬さん** 話がまとまらんまま、終わったな。

**田中さん** でもオレ…いいかな、ちょっとだけ。  
こういう感じでしゃべれるん、すごいワイは良かった。

**廣瀬さん** うちらは楽やんなあ。

**田中さん** 「ごっついな。」「ほうやな。」って思うことも、すごいようけあって。「廣瀬は今、こうなんや。」って思って、オレ、すごいモチベーション上がることもとかも、ようけあるし。ただ、パッと見た時に、オレらのやりとりを、こう見られようんは、何かおかしい。

**廣瀬さん** おかしい感じやね。

**田中さん** 何か、飲んだ勢いで言ようような感じやけん。でも、オレらは、常に真剣に生きようつもり。真剣にいろんな問題があって、連れとかが悩んどったら、連れの話も聞くし、気になって電話とかもしたりする。ほれは、みんな隣の子との繋がりがあって、すごい連れ関係の絆とか持っとんかもしれんけど、オレはそれに負けんぐらいの絆っていうんがある。ホンマにある。同級生の周りだったら。すごい誇れるし、自信があるんよな、連れに。そういう友達がオレら多いけん、オレも話とかもできたりするんかもしれへんけど。でも、そういう風になったんは、ホンマに最初って、隣の人との繋がりがやっただけ、これからもそういう感じで進んでいけたら、めっちゃいいなあって思う。

**廣瀬さん** ほなけん、やっぱり、なんぼ言うても、「最後はおってくれる。」っていう安心感があるけん、言えるっていうんはあるなあ、やっぱり。どの場においても、オレらは変やな。「何かあの二人、変なな。」って思う人が、

たくさんおっても、ホンマに分かってくれる子が何人かおったら。

**田中さん** うん。ホンマに楽。

**廣瀬さん** ほれで「楽やな。」っていう感覚でおるよな。

**田中さん** ほなけん、人権を語り合うって構えんと…オレ、これ、めっちゃ好きなん。「差別はあかん！笑顔が盛ん！！みんなで一緒に作るーや！！」って、このノリ。めっちゃ、いいと思う。もっと、こんな風に、楽にいけたらいいよな。

**廣瀬さん** でも、自分やが中学校の時も言ったよな。こういう話は、「真剣な話で聴くんじゃなしに、みんながワイワイ、ニコニコしながら、自分のことを語るんが、同和問題学習じゃ。」ってことも、言ったよな。何か、「同和問題の時間になったら、シーンとなって。」という雰囲気じゃなくて、みんなが自分のそれぞれの思いを、笑顔で言うていくっていうんな。

**田中さん** 今日は、もう時間なんで、あれかもしれへんけど、今日はホンマにオレら、こういう形でやらせてもらえて、すごい頼りないところもあったかもしれへんのやけど、オレ、見よって目が合う子とか、ごっつい、ようけおるし、ワイは「すごい温かいなあ。」って思う。すごい、ボクらも良かったです。こういう感じで、みんなの前でしゃべらせてもらって。ホンマに呼んでくれた先生とか、こういう会に感謝しています。

**田中さん・廣瀬さん** ありがとうございますした。

**田中さん** そういう感じで、いいですか。



**司会者** 田中伸二さん、廣瀬敬三さん、講演じゃない講演、ありがとうございました。それでは残りの時間、講演の感想や質問、意見交換を行っていききたいと思います。マイク係として、「T」中学校3年生の m さん、「Y」中学校3年の n さん、そして「Y」中学校2年の o さんがフロアを回ります。記録の関係上、発表者は団体名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしく願います。

**「G」中学校 p** ボクは「G」中3年の p と言います。今さっき講演で聴いた無意識ということについて、ちょっと関わりがあったので話そうと思います。ボクはバスケットをしているんですけど、その友達が土曜日と日曜日だけ練習に来ない日がありました。その理由は、ちょっと弟に病気があって、両親も仕事があるのでその土曜日と日曜日だけは、長男である友達が世話をしなければならぬという理由でした。でもボクは、全然そんなこと知らなかったの、「どうせきつい土曜日と日曜日だけ来んのだろう」とか、「さぼっただろう」とか、ぼんぼんぼんぼん言っていて、その子はつらい思いをしていたと思います。その子もバスケットに行きたかったと思うけど、周りの無意識の言葉が、ほんとに心を傷つけたと思っているので、今はその子ととても仲良く話したり遊んだりしています。だからこれからは、ほういう無意識とか、まあほういう怖さとかも知ったので、これからはど

んどん意識して、人間関係とか良くしていけたらと思います。

**司会者** 他にありませんか。「T」中の q さん、他にありませんか。

**「T」中学校 q** 「T」中3年の q です。ボクは広瀬さんと田中さんの講演を聴いて思ったのは、やっぱり仲間は大事なんで、もっともつといろんな人や地域の人とも仲良くしたいし、「T」中生もみんな仲がいいんで、今日習った、今日教えてもらった講演を生かして、「T」中生にも伝えていきたいと思います。今日はありがとうございました。

**「G」中学校 r** 「G」中2年生の r です。ボクは最初に話してくれた p 先輩の後輩で、同じバスケットボール部に入ってるんですが、先輩や後輩に悪口を言われたりしている人が前にいて、ボクはその悪口を言ってる人の周りにいたんですけど、見るだけで何も言わなかったんですけど、あとから後悔して、「なんであの時止めなかったんだろう」と思いました。今日の講演を最初に聞いて、その時何も言わなかったのは、本当に後悔しました。ボクも今同じ学年の子に、学校で時々悪口を言うてしまうんですけど、そういう時はいつもあとで後悔してしまいます。ボクも人生で後悔するのはとてもいやだし、相手もいやだと思ふし、そういうことはなくしていかなくはいけないと思ひました。終わります。

**「N」中学校 s** 「N」中の s です。私は田中さんとかの言われていた、「自分が変わる」「今の自分を受け入れる」という言葉に、とてもすごいことだなあと思ひました。私も時々悪口を言ったり、人のことをいやだなあと思ふ時があるので、そういうところから変わってきて、今日のことを勉強にして、一生懸命自分が変わっていきたくたいです。

おしていきたいです。

**「Y」中学校 t** 「Y」中3年の t です。こういう講演とかは初めてなんですけど。二人の掛け合いの中の講演ていうのは、ちょっと初めてで聞いていたんですけど。なんか二人の掛け合いの中に、なんかこう…言葉に、あったかさがあるっていうか、なんか温もりを感じるっていう感じで、なんか、すごいちょっとゾーンとして。ほんで講演の中で残っているのは、「部落の人も変わらなあかんけど、他の人も変わるってこと」っていうんですか？そういう感じのことを言っていて、部落の人が気負うっていうのかなあ、変わっていかあかんっていう感じに…。なんて言うんだろ。なんて言うんだろなあ。むだに気負うこともないんだなっていう、ほういう考え方っていうか、新しい考え方もあるんだなと思っていました。ありがとうございました。

**司会者** 今の二人の講演を聴いて、印象に残っているのは、二人の絆みたいなっていうか、友達関係がすごいなと思いました。ボクも、いつも一緒に遊んだりしている u さんに、その思ったことを言ってもらいたいと思います。

**「T」中学校 u** 「T」中3年の u と言います。田中さんと廣瀬さんの講演を聴いて、やっぱりボクも自分より下の人を見てしまう心っていう気持ちがちょっとありました。自分もテストが悪いんですけど、自分よりテストが悪い人がいる時に、やっぱり笑ってしまうという、そういう気持ちがあるので、まずその面を直して、自分自身と向き合っていけたらと思います。

**「T」中学校 v** 「T」中2年の v です。ボクも無意識とかで…バレー部の1年でよく休んでいる子がいるんですが、やっぱりさぼりだと思ってしまうことがあるんで、それを自分からな

**「G」中学校 w** 「G」中3年の w です。私は「G」中の全体学習とかで発表することとかもあるんですけど、人の前で、皆の前で言っているとすごくキレイゴトみたいな感じになって、いやになることがあるんですよ。それで、今日の講演を聴いていて、実際心のどこかで、ほんまに差別したらいかんかという気持ちがあるから言ってるんだなあと思って、そういう気持ちを大切にしていこうと思いました。終わります。

**「G」中学校 x** 「G」中3年の x と言います。私は田中さんの話の中に、差別で自殺をする人がいるという話で、私の死に方の中に自殺という選択肢はなくて、ニュースとかでよく同級生とかが自殺をしているという話を聞いて、「とても変だなあ」とか、「おかしいなあ」とか思うんですが、差別をされていたり、いじめなどをされている子は、自殺をしたいほど追い詰められていると思うので、差別とかをなくして行って、自殺をする人が一人でも少なくなるようにしていけたらいいと思います。終わります。

**「Y」中学校 i** 廣瀬さんと田中さんは、今までの中学生の意見を聞いてどう思いますか？

**廣瀬さん** 今までの意見を聞いてっていうか、さっきふったよね？みんなの今の話を聞きよって、自分やの中学校の時ってどうだったのかなっていう意識で考えてみたら、初めはやっぱりキレイゴトなんかも知れんけど、伸二が言うけん、伸二に言わしたら、ほの次一人にさしたらあかんっていう意識があった。だから横の友達が手挙げたら、オレも手挙げた。オレも手挙げたら、あいつも手挙げてくれる。あいつも手挙げてくれる。で、自然とその当時の全体学習やは、前で担任の先生が

おるんやけど、子どもやだけでしょったよな。  
「自分はこう思うんじゃ」って言うたら、必ず横の自分やのつながりのある子やが、「自分はこう思うんじゃ」っていう風なんを返してくれる安心感があつたかな。やっぱり自分が中学校のときもほうやけど、人前でみんなの前で立って、何百人の前で立って一人でマイク持って話すっていうんは、すごい勇気のことやし、今この場で言うんもすごい勇気があることやし、あの子が言うんだつたら、私もなんかとりあえず一言でいいから言うてみよや。で、ほの言うっていうんが、ほんまにほれで何か変わるんかちゅうたら、自分も分からんけど、やっぱりアクションを起こしてみんことには、なんも変わらんかなって。やっぱり、さっき「ボクの親友の誰それくんお願いします」っていう風なんでもいいから、やっぱり、どんどんどんどん、この中で輪を広げていってほしいなっていうのを、今、聞きながらすごく思いました。



**田中さん** えっとねえ、え〜と、何くんだった？  
r くんかなあ、「めっちゃ後悔しとう」って。言うて、オレも後悔すること、めっちゃようけある、一緒。今も、今でもあるもんなあ。「ああ、こんなこと言うんでなかった」とか。「あの子傷ついとんだろなあ」って思う後悔の仕方ってすごいようけあつて。でも、オレな、そういうことをしたときにな、後悔したって思えることがすごい大事と思う。うん。すごい、ボクいいと思うんよ。何があかんかって、やったことに対して放つたらかしてお

る状態。自分がやったことに対して、これあかんことじゃよなつて思わんこと。無知なこと。なんも知らん人間ほどほんまに怖いもんはないけん。あかんことに気づくっていう、そういうところがすごい、ぼくいいなつて思うんよ。けど逆に、「オレは今あかん」て後悔した時に何をしようかって言うたら、あの連れに対して、ほういう後悔をしてしまうことって結構あるんよ。連れやけん言えることとてえ。連れやけんいやなこととか言えるんやけど、やっぱりあかんかなつて思った時は、やっぱり謝る。「あつ、オレやっぴりちよつと言い過ぎたかな」とか。で、実際ほの悪口を言よう子とかがおつたら、やっぱり怖い。怖いところあると思うんよ。止めることによつて、オレもほうなんよ。止めることによつて、自分も、「あいつ何止めよんな」つて思われるんもいや。うん。ほなけん、結局、傍観者になつてしまうところもあると思う。今でもきつとあると思うよ。でも、ほれは人やけん、100%の人間はおらんけん。ほれもさっき言よつたように、全てそういうんも自分やけん受け止めて、そういうつながり、そういうんを見たときに、「これつてもつと、ほういうん言うたらあかんのちゃうん」つていうんを言える瞬間でいうんが、きつとどっかにあると思うけん。ほなけん、「後悔してます。」つて言う。ほれだけでオレすごいいいと思うん。て一応思つたんと、地区外、地区内つていう話しよつた時に、ほの時パツと思つたんやけど、オレは地区出身やけん、ずっと部落差別、部落差別つて言うてきとつて、今もきとる。今もそう。親友のみんなとか、広島のいろいろな人とかと会つて話した時とかも、めっちゃ濃い友達とかには自分のこと言う。自分の親のふるさとのこととか言う。ほんなら、向こうもおんなじように自分の思つて返してくれるけん、自分もやっぴり上がるやん？言うたことに対しておんなじようなこと言われたら上がるけん。「オレ、実はね、こ

ういう部落差別に取り組んどって」っていう風な話をしたりする。安心できるけん。で、そういう自分は、自分の中心は部落差別をなくすことになっとんかも分からん。けど、オレ結局、普通の人間関係をどうする、どうせんとかと、連れを大事にするとかっていうことが、部落差別をなくすんに、オレはつながっていくんやって思うん。ほなけん自分の中では、部落差別、部落差別メインできたけど、オレ結局、人間関係をつくらんしょうけん、部落差別のことも、差別を許せへんようになってきたかな？っていうんは思うかなあ。ほなけん、この学習に取り組むだけだったら、やっぱり一個だけになってまうけん、やっぱり人間関係をよように、友達とかを大事にしとったら、多分友達がどんないじめとか、どんな差別とかにおうても、私はどなんが来ても守るっていう、お前を大事にするっていう感覚っていうんを持つことが、全部の差別とかいじめとかをなくすことに、オレはつながるんちゃうんかなっていうんを、彼女が話したときに、「あ〜、ほうか！」っていうんを思ったかなあ。うん。で、そうそうそう。オレ、そうそうそう。お前を大事にするっていうんがいいんちゃうん？オレ廣瀬大事にするもん、きっと。で、あのな、さっきの司会者の、なんかめっちゃハードル上げる呼び方？なんかあるやん？そういうんオレ好きやけん。帰って、あの「Y」中の子かなあ？家の人に伝えたいとか言うてくれた子とか、すごい大事と思うけん、何を伝えてほしいかっていうと、このノリを伝えてほしいよ。何がどうとか、内容がどうとかじゃなくて、こういうノリを、「人権学習きっこうだぜ」っていうんを、伝えていってほしいし、みんなもこういうノリでやったら、怖いもんはない。きっと。あっ、ごめん。そういうこと思った。何、その「ふうん…」みたいな感じ。(会場 笑い)

「Y」中学校 c 「Y」中3年の c と言います。え

っと、私の学級で、ある子についての話し合いをして、その子について思ったことを、私は意見を出して、話し合いはいったん終わったんですけど。それが終わって、学校が終わって、駐輪場に自転車にカバンとかをくくりつけている間に、私の隣のところに自転車を停めている男の子が、私の発言について、「キミが言ったことはキレイゴトやな。」って言ったんですよ。私はキレイゴトを言っているつもりで言ったのではないんですけど、キレイゴトって悪いことですか？



廣瀬さん う〜ん、どうやろなあ。でも、今おんなじことをオレがあうとするやんか。でも、社会人の、社会人のつつたらおかしいけど、今のオレの生活と中学校のみんなが学んびょう生活って、やっぱちょっと違うところがあるけん。でも、今のオレの感覚？で言わしてもらったら、やっぱ中学生のメンツやけん、みんな仲間やけん、大事にしていかなあかんっていうんがあるけど。おるよ、そういう子。中に、やっぱおったりする。そういう感じで言われたらオレは、全然。自分は自分やんか？私は本気で言よう。オレは本気でやりよう。っていうんを伝えるんやけど。別に、ほんなん。オレは、どない言うんだろなあ？こういう言い方をここでしていいんか分からんけど、オレは、オレにはオレのやり方があるけん、全然それはスルーする。うん。オレの感覚だけで言わしてもろたら、ほの子、ほいつ、オレにそういうことを言うてくるそいつのことも大事なんやけど、オレの今やんよること

も、すごい自分の中では大事やけん、別にあえてオレはそいつに、「そんなんちゃうよ。」っていうんを、オレは行動で示す。うん。やっぱり常にそういう気持ちを持ち続けて、そうやって発表することもすごい大事やと思うし、オレも実際キレイゴト言よんちゃうん？とか、キレイゴトを言よったりしたときもあったけど。うん。でも、彼女はキレイゴトを言ったケースじゃないけん、今の話はやめとくな。ほなけん、オレは全てのことを気にはせん。うん。かと言うて、どうなんだろ？ちょっと待ってな。いや、今の発言を聞いて、自分はほんまに拍手を送りたいぐらい、ほんまに本音をすごい言ようなっていうんが伝わったんやけど。ほれを伸二とおんなじかも知れんけど、キレイゴトと思うか思わんかっていうんは、自分自身の問題やと思うんよ。自分自身の中で、自分や二人でも言よったけど、中学校の時を振り返って、自分で「キレイゴトの面があったな」って。ほれは自分自身で思った面で、うちやもほうやけど、はたから、「あんたやが言よんキレイゴトなんちゃうん？」っていう風なこと言われたことやってあった。で、自分自身がほんまにキレイゴトやなって思えよったら、すごい悩んだ。けど今、「あ〜、この彼女が言よんは自分自身では絶対キレイゴトじゃない」っていうんがあるんだったら、ほれはキレイゴトっていうこと自体がおかしいんやな。ほなけん、さっき伸二も言よったけど、もうほいつが何と言おうが、自分はほんまに思て言よんやけん、ほれを突き通せば自分はいいと思う。ほなけんオレは、さっき二人でも言よったけど、人が自分やに言ようことに対して、人がとやかく言おうが自分は自分なんやけん。自分自身で自信を持って、突き進んで行く。で、ほれを周りの人みんなが、「あいつやっぱりキレイゴト言ようわ。キレイゴト言ようわ。」って言うんだったら、やっぱりほうじゃない仲間をつくっていくっていうんが、ずうっと言

よった、つながりかなっていう気がする。やっぱりこういう風な周りの人間関係っていうんを、今の中学生の時に築いてほしいなって。やっぱり一人だったら、絶対立ち向かえんけん。何人かであろういう風なおんなじ考えの子やで、「こうやな、こうやな。」っていう風なことでいったら、ほんまにすばらしいになるんちゃうかなっていう気はします。

「Y」中学校c ありがとうございます。



**司会者** ほかにありませんか？まだ自分の意見を言えてない人もいますが、このあたりで全体会午前の部を終了させていただきますと思います。最後に田中伸二さん、廣瀬敬三さんにもう1度拍手をお願いします。